

|| 企業調査レポート ||

## フリービット

3843 東証 1 部

[企業情報はこちら >>>](#)

2019 年 7 月 10 日 (水)

執筆：客員アナリスト

**角田秀夫**

FISCO Ltd. Analyst **Hideo Kakuta**



FISCO Ltd.

<http://www.fisco.co.jp>

## 目次

■ 要約	01
1. 2019年4月期通期の業績動向	01
2. 2020年4月期通期の業績見通し	01
3. 中長期の成長戦略	02
■ 会社概要	03
1. 会社概要	03
2. 沿革	03
3. 事業内容	04
■ 事業概要	05
1. ブロードバンド事業	05
2. モバイル事業	07
3. アドテクノロジー事業	07
4. ヘルステック事業	08
5. エドテック事業	09
■ 業績動向	10
1. 2019年4月期通期の業績概要	10
2. 財務状況と経営指標	11
■ 今後の見通し	12
■ 中長期の成長戦略	14
1. 中期事業方針「SiLK VISION 2020」の見通し	14
2. ベンチャー企業の発掘と育成	15
■ 株主還元策	16

## ■ 要約

### 2019年4月期通期は大幅増収増益。ブロードバンド事業が業績けん引。モバイル事業とヘルステック事業の収益性向上。当期純利益で黒字化達成

フリービット<3843>は、インターネット・サービス・プロバイダー（ISP）へのインフラ提供やMVNE（Mobile Virtual Network Enabler: 仮想移動体通信サービス提供者）としてのMVNO※1への参入支援、バーチャルデータセンター（VDC）※2を中心とするクラウドインフラの提供、インターネット・サービスにおけるコンサルティング、ソリューションなど様々なサービスを、主に法人向けに提供する。また、グループ会社を通じて、個人向けのISPやMVNOサービス、Webマーケティングサービス、集合住宅向けのインターネット関連サービスなどの事業を手掛ける。

※1 Mobile Virtual Network Operatorの略。NTTドコモ<9437>、KDDI<9433>、ソフトバンク<9434>のような無線通信基盤を有する事業者から回線を借りて独自の通信事業を行う事業者。

※2 データセンターの機能を仮想的に構築し、インターネット上から利用できる仕組みまたはサービス。

#### 1. 2019年4月期通期の業績動向

2019年4月期通期連結業績は、売上高が前期比30.3%増の50,365百万円、営業利益が同61.1%増の2,981百万円、経常利益が同80.1%増の2,569百万円、親会社株主に帰属する当期純利益が279百万円（前期は567百万円の損失）となり、大幅な増収増益となった。売上高に関しては、マンションインターネット等が好調のブロードバンド事業（前期比35.5%増）、急成長するヘルステック事業（同82.9%増）及びエドテック事業の開始（売上高4,776百万円計上）により大幅な増収となった。営業利益に関しては、マンションインターネット（ブロードバンド事業）の粗利増加（前期比1,202百万円増）、ヘルステック事業の拡大に伴う収益性向上（同417百万円増）、モバイル事業の利益率改善（同391百万円増）などが寄与し、大幅増益を達成した。なお、エドテック事業を担う（株）アルクは買収前から黒字の企業だが、買収後も営業利益ベースで281百万円の利益貢献をしている。

#### 2. 2020年4月期通期の業績見通し

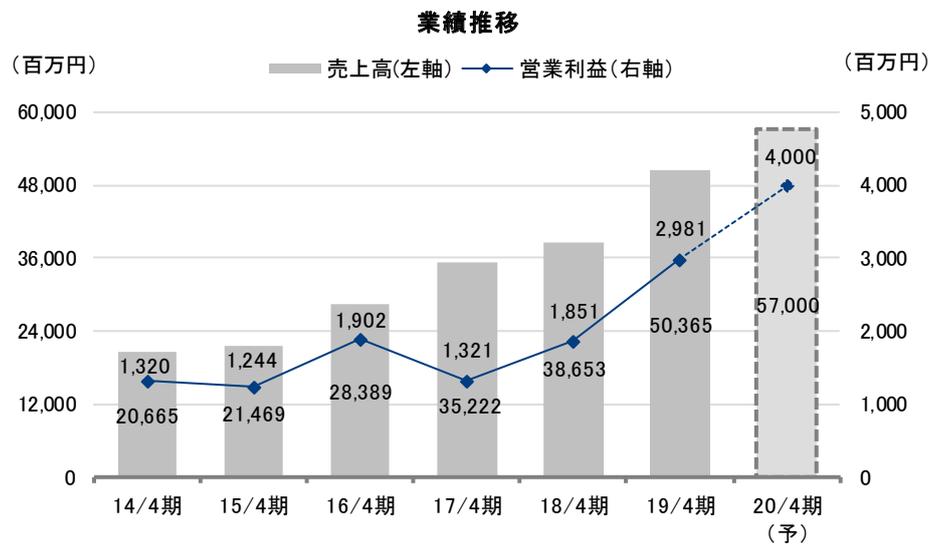
2020年4月期通期の連結業績は、売上高が前期比13.2%増の57,000百万円、営業利益が同34.2%増の4,000百万円、経常利益が同47.9%増の3,800百万円、親会社株主に帰属する当期純利益が同258.0%増の1,000百万円と、7期連続の増収と過去最高の営業利益を更新する計画だ。売上高に関しては、稼ぎ頭であるマンションインターネットで提携先大手ハウスメーカー向け提供戸数が増加し、IoTサービスの拡充なども加わり順調に拡大する予想だ。フリービットEPARKヘルスケアが伸びているヘルステック事業、エドテック事業も増収に寄与する予想だ。営業利益に関しては、マンションインターネット及びヘルステック事業が大幅増益の予想。エドテック事業も堅調に収益を確保する予想である。

### 3. 中長期の成長戦略

同社は2016年6月に4ヶ年の中期事業方針「SiLK VISION 2020」を発表し、2020年4月期に売上高500億円、営業利益50億円を目指している。グループ基本方針では生活革命とモバイル革命の2つを成長領域と定義する。生活革命の中では、ヘルステック事業にいち早く着手し、有望な事業としての基盤を確立しつつある。現在、先行投資を加速しているのが不動産テック事業、そして2018年に子会社化したアルクを母体とするエドテック事業である。「SiLK VISION 2020」の最終年度の営業利益目標5,000百万円に対して、2020年4月期の通期予想は4,000百万円であり、両者には開きがある。通期予想は“確実性の高いコミットメント”であり、中期経営計画は“ストレッチ目標”として達成を目指す位置付けである。不動産テック事業やヘルステック事業の想定以上の伸び、インフラテック事業でのコストダウン進捗、エドテック事業でのデジタルサービス化などが奏功すれば、中期経営計画の営業利益目標に近づくことになる。中期経営計画最終年度の追い込みに期待したい。

#### Key Points

- ・インターネットやモバイルのインフラ提供に強みを持つメガベンチャー。M&Aでグループ成長。2018年にアルクを子会社化しエドテック（教育）に進出
- ・2019年4月期通期は大幅増収増益。ブロードバンド事業が業績けん引。モバイル事業とヘルステック事業の収益性向上。親会社株主に帰属する当期純利益で黒字化達成
- ・2019年4月期はアルク連結により資産規模拡大。現金及び預金150億円以上保有しM&Aにも機動的に対応できる体制
- ・中期経営計画「SiLK VISION 2020」の売上高を1年前倒しで達成。最終年度は営業利益50億円にどこまで近づくかが焦点



出所：決算短信よりフィスコ作成

## ■ 会社概要

**インターネットやモバイルのインフラ提供に強みを持つメガベンチャー。  
 M&A でグループ成長。  
 2018年にアルクを子会社化しエドテック（教育）に進出**

### 1. 会社概要

同社は、インターネット・サービス・プロバイダー（ISP）へのインフラ提供やMVNEとしてのMVNOへの参入支援、バーチャルデータセンターを中心とするクラウドインフラの提供、インターネット・サービスにおけるコンサルティング、ソリューションなど様々なサービスを、主に法人向けに提供する。また、グループ会社を通じて、個人向けのISPやMVNOサービス、Webマーケティングサービス、集合住宅向けのインターネット関連サービスなどの事業を手掛ける。

グループには、(株)ギガプライズ<3830>、(株)フルスピード<2159>、(株)ドリーム・トレイン・インターネット（完全子会社）、(株)フォービット（フルスピードの完全子会社）、(株)フリービット EPARK ヘルスケア（子会社）、トーンモバイル（株）（持分法適用関連会社）、アルクなど多数の企業が含まれる。

### 2. 沿革

同社（前身は株式会社フリービット・ドットコム）は2000年に東京都渋谷区で設立された。ISP（インターネット接続事業者）向けサービスを中心に成長し、2007年に東証マザーズに上場。上場を契機に、M&Aによる事業領域の拡大を加速化している。同年に個人向けISPを手掛けるドリーム・トレイン・インターネットを、2009年にはギガプライズを連結子会社化。2010年にはインターネット広告代理店のフルスピードの連結子会社化に伴い、同社子会社のアフィリエイト広告事業のフォービット、ITプラットフォーム事業の(株)ベッコアム・インターネットなども連結子会社とし、企業理念「Being The NET Frontier! ~ Internetを上げ、社会に貢献する~」のもと、事業領域を拡大している。2011年には、MVNE/MVNO事業に参入し、モバイル事業領域でも成長を加速。2016年にはM&Aを足掛かりにヘルスケア事業にも進出。2017年3月には不動産テック領域進出の足掛かりとして不動産仲介業フォーメンバーズを連結子会社化。2018年9月には総合語学教育サービスを提供するアルクを完全子会社化し、教育分野のIT化領域に挑む。2016年に東証1部に昇格した。

フリービット | 2019年7月10日(水)  
3843 東証1部 | <https://freebit.com/ir/>

## 会社概要

## 会社沿革

年月	主な沿革
2000年 5月	東京都渋谷区にインターネットビジネス支援等を事業目的とした株式会社フリービット・ドットコムを設立
2002年12月	フリービット・ドットコムからフリービット株式会社に商号を変更
2007年 3月	東京証券取引所マザーズ市場に上場
2007年 8月	個人向けISP事業を展開する(株)ドリーム・トレイン・インターネットを連結子会社化
2009年 3月	東京証券取引所マザーズ市場上場のメディアエクステンジ(株)(同社の完全子会社化により上場廃止。現在は(株)ドリーム・トレイン・インターネットに吸収合併)の連結子会社化に伴い、その子会社でありマンションISP事業を展開するギガプライズ<3830>も連結子会社化
2010年 8月	インターネット広告代理店のフルスピード<2159>、アフィリエイト広告事業を展開し独自プログラム「アフィリエイトB」などを提供する(株)フォーイット、ITプラットフォーム事業を展開する(株)ベッコアメ・インターネット等を連結子会社化
2011年 3月	MVNO(仮想移動体通信事業者)事業に参入
2013年 9月	NTTドコモ<9437>とのL2接続によるMVNE(MVNO支援事業者)サービス「freebit MVNO Pack」をMVNO向けに提供を開始
2013年11月	ドリーム・トレイン・インターネットが端末開発からユーザーサポートまでのすべてを一元的に行うMVNOサービス「freebit mobile」の提供を開始
2015年 1月	MVNO事業を展開するフリービットモバイル(株)(現トーンモバイル(株)、カルチャー・コンビニエンス・クラブ(株)との合併会社)を設立
2015年 4月	業容拡大のための投資を目的にフリービットインベストメント(株)を設立
2015年 9月	ドリーム・トレイン・インターネットがモバイル高速データ通信サービス「DTI SIM」の提供を開始
2015年12月	フルスピードが亚智游(北京)信息科技有限公司の総経理との合併会社である(株)ゴージャパンを設立し、訪日観光客向けの日本旅行アプリ事業を開始
2016年 3月	法人向けクラウド型PBXサービス「モバビジ」の提供を開始
2016年 7月	東京証券取引所市場第1部に市場変更
2016年 9月	ヘルスケアソリューションサービスを提供する(株)EPARKヘルスケア(現(株)フリービット EPARKヘルスケア)を連結子会社化
2017年 2月	(株)EPARKヘルスケアから(株)フリービット EPARKヘルスケアに商号を変更
2017年 3月	ギガプライズが(株)フォーメンバースを連結子会社化
2017年 4月	ギガプライズが100%子会社である(株)ESPを吸収合併
2017年 5月	フルスピードがスマートフォン向け動画アドネットワーク事業を会社分割し、(株)カムボールド(現(株)クライド)を設立
2017年 8月	医療施設向けデジタルサイネージを提供する(株)医療情報基盤を連結子会社化
2017年10月	ギガプライズが集合住宅向けISP事業の拡大に向けて(株)ギガテックを設立、連結子会社化
2018年 3月	ティアックオンキョーソリューションズ(株)より、介護記録システム事業を譲受け
2018年 9月	語学教育の(株)アルクを連結子会社化

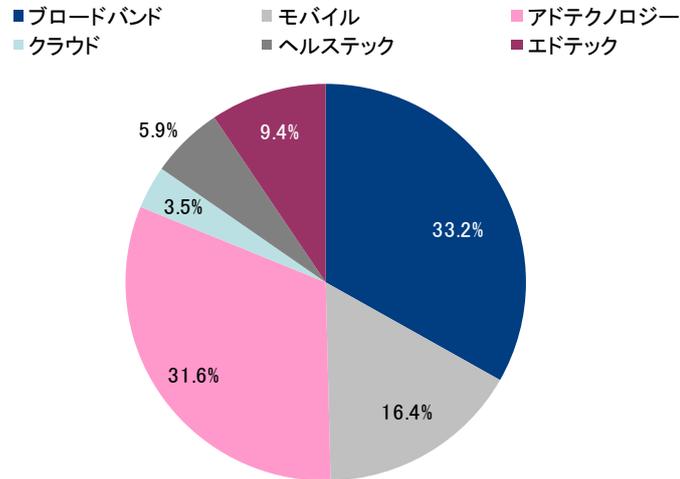
出所：ホームページよりフィスコ作成

## 3. 事業内容

2019年4月期通期のセグメント別売上構成は、ブロードバンド事業 33.2%、モバイル事業 16.4%、アドテクノロジー事業 31.6%、クラウド事業 3.5%、ヘルステック事業 5.9%、エドテック事業 9.4%である。

## 会社概要

セグメント別売上構成比(2019年4月期)



出所：決算説明資料よりフィスコ作成

## 事業概要

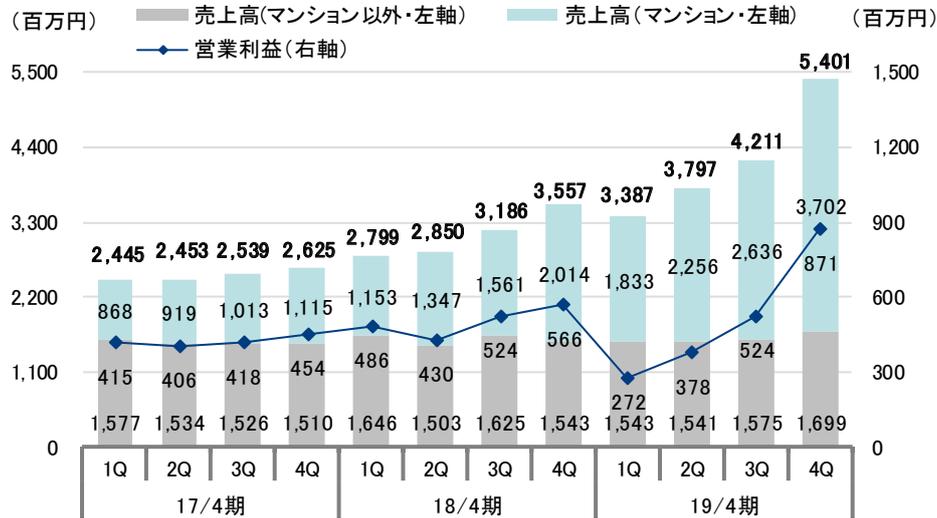
### ブロードバンド事業とアドテクノロジー事業が収益源。 急成長するヘルステック事業も黒字化間近

#### 1. ブロードバンド事業

ブロードバンド事業は、ISP 向け事業支援サービス、一般法人や集合住宅及び個人向けの固定回線によるインターネット接続サービスを主に提供する。固定網による通信サービス市場は、高速ブロードバンド環境の普及が一巡したことに加え、モバイル網による通信サービスの高速化の影響もあり全体としては成長が緩やかになっている。そのなかで、ギガプライズのマンションインターネット事業は、超大手ハウスメーカー複数社との協業開始により導入が加速しており、導入実績は累計で42.5万戸(前期末比16.8万戸増加)と高い成長を維持している。ブロードバンド事業の2019年4月期通期の売上高は前期比35.5%増の16,798百万円、セグメント利益は同1.9%増の2,046百万円と大幅増収とともに増益となった。本来なら大幅増益となるところだが、“不動産テック”を推進する子会社フォーメンバーズに戦略的な先行投資を行っているため増益幅は抑えられた。

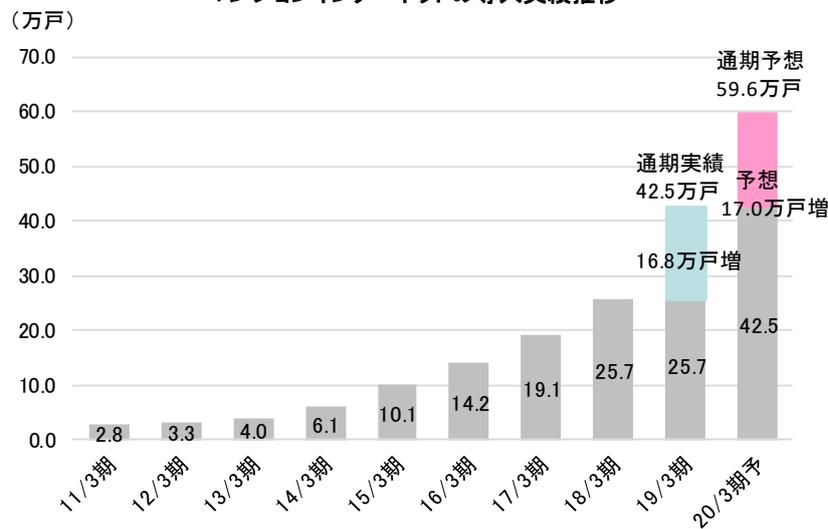
事業概要

ブロードバンド事業 売上高・セグメント利益の推移



出所：決算説明資料よりフィスコ作成

マンションインターネットの導入実績推移

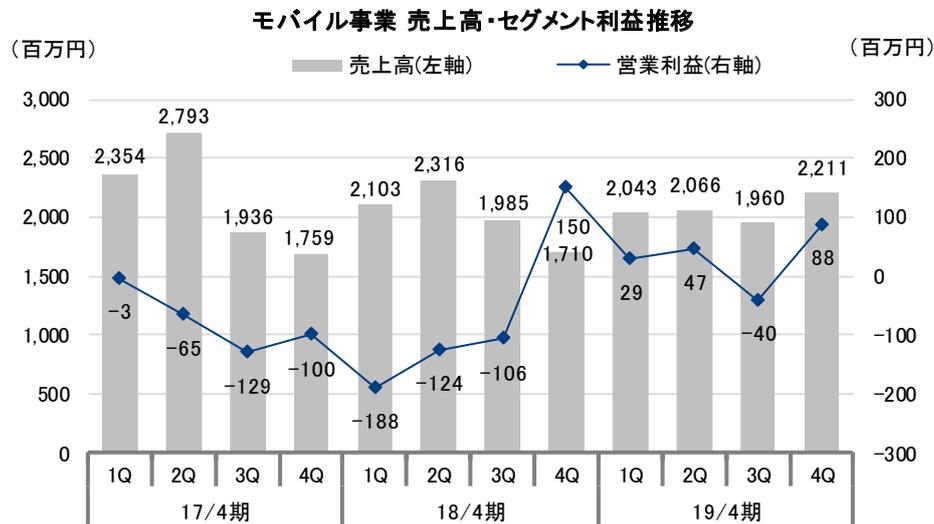


注：マンションインターネット事業は3月決算の子会社ギガプライズの事業  
出所：決算説明資料よりフィスコ作成

## 事業概要

## 2. モバイル事業

モバイル事業は、MVNO 向け事業支援 (MVNE) サービス及び個人向けモバイル通信サービスを行う。主要顧客である MVNO 事業者の経営戦略から影響を受けるため、事業環境は不透明な面がある。2019 年 4 月期通期の売上高は前期比 2.0% 増の 8,281 百万円、セグメント利益が 123 百万円(前期は 268 百万円のセグメント損失)と増収増益となった。売上高に関しては、通信キャリアの卸値の低下による売価(単価)の値下げがマイナス要因となったが、トーンモバイルの新スマートフォン端末の納品等もあり増収となった。セグメント利益は前期の赤字から一転黒字となった。スマートフォン端末販売増及び各種費用の低減効果(通信原価、販促費など)が主な要因である。



出所：決算説明資料よりフィスコ作成

## 3. アドテクノロジー事業

アドテクノロジー事業は、法人向けにインターネットマーケティング関連サービスを提供する。インターネット広告市場は、従来型の予約型広告からリスティング広告やアドテクノロジー活用広告といった運用型広告への移行が進む。なかでも動画広告やソーシャルメディア広告、モバイル向け広告などが市場成長をけん引する。主力の広告運用総合プラットフォーム「AD MATRIX」は、新たに動画機能及び独自データ確保により更なる進化を遂げており、DSP※1 国内 No.1 の地位にある。また、アフィリエイト・サービス・プロバイダー (ASP) ※2 であるフォーイトが提供するアフィリエイトプラットフォーム「afb」※3 は、その独自の機能が評価されアフィリエイト利用満足度 No.1 を 5 年連続で獲得する。「afb」は現在海外展開を加速しており、台湾に続き、マレーシア、シンガポールなど ASEAN 諸国における展開を加速している。

※1 Demand Side Platform。

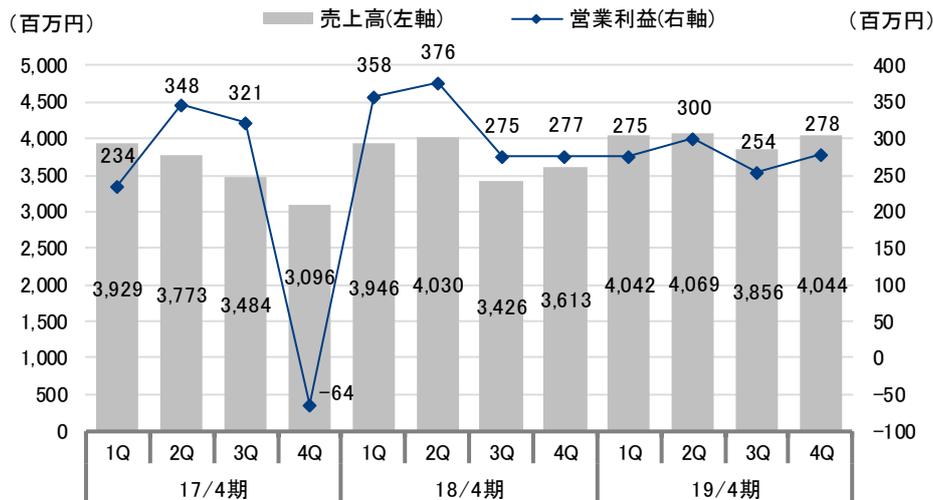
※2 成功報酬型広告を配信するサービス・プロバイダー。

※3 約 55 万を超えるパートナーサイトをネットワーク化。PC のノウハウを生かし、タブレット・スマートフォン・モバイルでもサービスを展開している。旧名称は「アフィリエイト B<sub>1</sub>」。

## 事業概要

2019年4月期通期の売上高は前期比6.6%増の16,013百万円、セグメント利益は同14.0%減の1,107百万円と増収減益となった。売上高が横ばいとなった背景には、検索エンジンのアルゴリズム変更の影響がある。減益の要因としては、インキュベーション（新規事業、M&A）関連の体制強化により販管費が増加したことが挙げられる。

アドテクノロジー事業 売上高・セグメント利益推移



出所：決算説明資料よりフィスコ作成

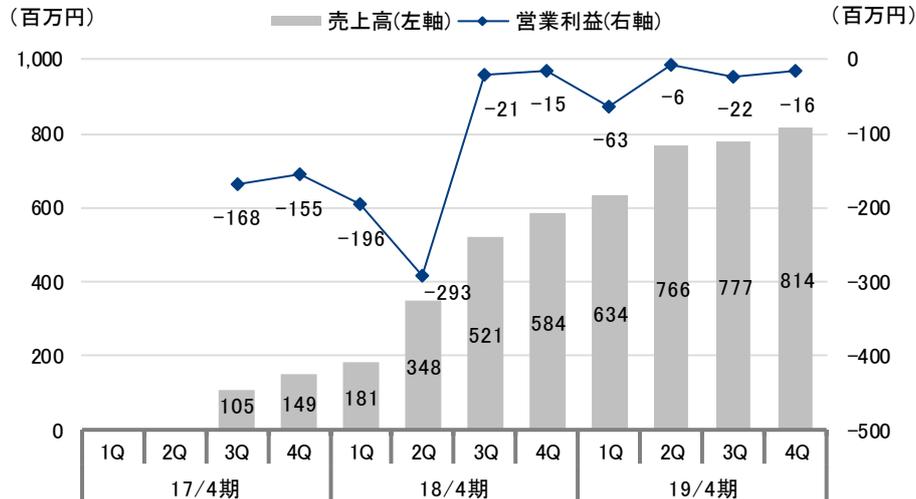
## 4. ヘルスケア事業

ヘルスケア事業は、薬局総合ポータルサイト「EPARK くすりの窓口」の運営を始めとする薬局向けソリューションサービスを提供する。母体となるのは、2016年9月に株式を取得し（議決権所有率47.5%）、連結子会社化したEPARKヘルスケア。2017年2月にはフリービットEPARKヘルスケアに社名変更した。事業構想としては、エンドユーザー（患者）と調剤薬局をつなぐメディア・プラットフォームを同社の技術力で進化させ、エンドユーザーへ情報提供や利便性の高い予約・配送サービス等を行うというもの。収入モデルは、患者送客に伴う手数料、予約システム利用料などである。エンドユーザー（患者）向けの無料アプリ「EPARKお薬手帳」は、薬局の受取予約・服用アラーム・お薬情報の登録などの利便性の高い機能が話題を呼び、マスメディアでの露出も手強い、累計63万ダウンロード（2019年4月）を突破し、同種のアプリではNo.1の実績である。薬局での予約件数も右肩上がりであり、薬局予約件数も増えている。2019年4月期通期の売上高は前期比82.9%増の2,993百万円と大幅に成長し、セグメント損失は109百万円（前年同期は527百万円のセグメント損失）と大幅に改善した。なお、本セグメントの中核会社であるフリービットEPARKヘルスケアは、2019年4月期通期で黒字化を達成している。事業拡大に向けて戦略投資を継続しつつも、セグメントとしての黒字化の目途が立ってきた。

フリービット | 2019年7月10日(水)  
3843 東証1部 | <https://freebit.com/ir/>

## 事業概要

## ヘルステック事業 売上高・セグメント利益推移



出所：決算説明資料よりフィスコ作成

## 5. エドテック事業

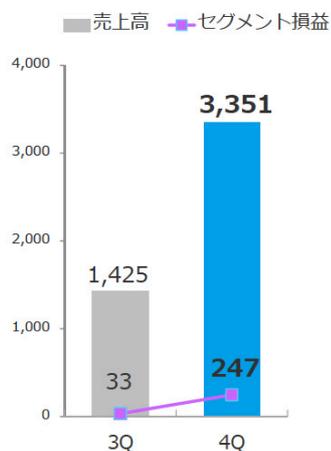
エドテック事業は、連結子会社アルクが担っている。主軸となる出版分野では日本語・第二外国語出版書籍が好調。文教分野では大学等からの大型受注を獲得し、業績は堅調に推移している。2019年4月期の売上高は4,776百万円、セグメント利益は281百万円となっている。

## エドテック事業進捗

## 新報告セグメント「エドテック事業」を開始

4月に50周年を迎えたアルクは、グループシナジーにより更なる事業規模の拡大を目指す

## 売上高・セグメント損益



■ 3月15日発表:  
アルク、ソフトウェア開発会社ピナヤマトの株式51%を取得

■ 3月22日発表:  
アルク、30万人が学ぶ英語アプリ「OKpanda英会話」を事業譲受



※2019年4月期は、アルクの決算期変更に伴い4Qに11月～4月までの6ヵ月分を計上

出所：決算説明資料より掲載

## 業績動向

### 2019年4月期通期は大幅増収増益。ブロードバンド事業が業績けん引。モバイル事業とヘルステック事業の収益性向上。当期純利益で黒字化達成

#### 1. 2019年4月期通期の業績概要

2019年4月期通期連結業績は、売上高が前期比30.3%増の50,365百万円、営業利益が同61.1%増の2,981百万円、経常利益が同80.1%増の2,569百万円、親会社株主に帰属する当期純利益が279百万円（前期は567百万円の損失）となり、大幅な増収増益となった。売上高では6期連続の増収、営業利益は過去最高益となる。

#### 2019年4月期通期連結業績の概要

（単位：百万円）

	18/4期		19/4期		前期比
	実績	売上比	実績	売上比	
売上高	38,653	-	50,365	-	30.3%
売上原価	27,986	72.4%	35,212	69.9%	25.8%
売上総利益	10,667	27.6%	15,153	30.1%	42.1%
販管費	8,815	22.8%	12,171	24.2%	38.1%
営業利益	1,851	4.8%	2,981	5.9%	61.1%
経常利益	1,426	3.7%	2,569	5.1%	80.1%
親会社株主に帰属する 当期純利益	-567	-	279	-	-

出所：決算短信よりフィスコ作成

売上高に関しては、マンションインターネット等が好調のブロードバンド事業（前期比35.5%増）、急成長するヘルステック事業（同82.9%増）およびエドテック事業の開始（売上高4,776百万円計上）により大幅な増収となった。中期経営計画「SiLK VISION 2020」の最終年度の売上高目標50,000百万円を1年前倒しで達成した形だ。

営業利益に関しては、マンションインターネット（ブロードバンド事業）の粗利増加（前期比1,202百万円増）、ヘルステック事業の拡大に伴う収益性向上（前期比417百万円増）、モバイル事業の利益率改善（前期比391百万円増）などが寄与し、大幅増益を達成した。なお、エドテック事業は買収前から黒字の企業だが、買収後も営業利益ベースで281百万円の利益貢献をしている。

経常利益は、営業利益の増益（前期比1,130百万円増）などにより大幅増益。親会社株主に帰属する当期純利益は経常利益増（前期比1,143百万円増）、減損損失の減少（189百万円）などの影響で黒字に転じた。

## 業績動向

## 連結貸借対照表、経営指標

(単位：百万円)

	18/4 期末	19/4 期末	増減額
流動資産	22,013	27,558	5,544
(現金及び預金)	13,656	15,458	1,802
(受取手形及び売掛金)	5,088	8,296	3,207
(商品及び製品)	286	820	533
固定資産	8,783	11,605	2,822
(有形固定資産)	2,122	2,924	802
(無形固定資産)	4,269	5,635	1,366
(投資その他の資産)	2,391	3,045	653
総資産	30,796	39,164	8,367
流動負債	10,352	13,834	3,482
固定負債	9,769	14,020	4,251
負債合計	20,121	27,855	7,733
純資産合計	10,675	11,308	633
負債純資産合計	30,796	39,164	8,367
<安全性>			
流動比率	212.6%	199.2%	-
自己資本比率	28.8%	23.0%	-

出所：決算短信よりフィスコ作成

## 2019年4月期はアルク連結により資産規模拡大。 現預金150億円以上保有しM&Aにも機動的に対応できる体制

### 2. 財務状況と経営指標

2019年4月期末の総資産は前期末比8,367百万円増の39,164百万円となった。大幅に資産規模が拡大した理由の一つは、2018年9月28日に全株式を取得したアルクのBSが連結されたためである。うち流動資産は5,544百万円増であり、主な増加は受取手形及び売掛金の3,207百万円増および現金及び預金の1,802百万円増などである。固定資産は2,822百万円増であり、無形固定資産の1,366百万円増などが主な要因である。現金及び預金の残高は15,458百万円と潤沢であり、M&Aなどにも機動的に対応できるように備えている。

負債は前期末比7,733百万円増の27,855百万円となった。うち流動負債は3,482百万円増であり、未払金の1,107百万円増などが要因である。固定負債は4,251百万円増であり、長期借入金2,343百万円増などが要因である。

安全性に関する経営指標(2019年4月期末)では、流動比率は199.2%、自己資本比率は23.0%となっており、財務の安全性を維持している。

## ■ 今後の見通し

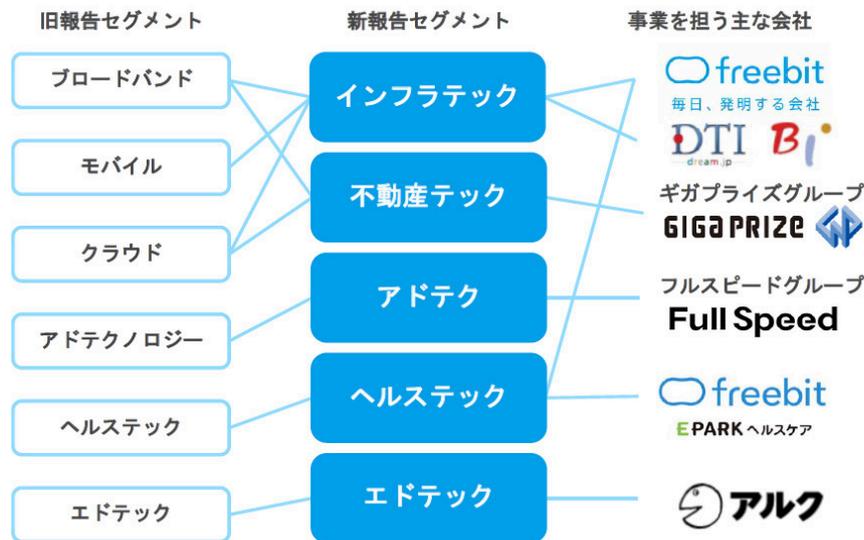
### 2020年4月期通期は売上高570億円、営業利益40億円、2ケタの増収増益予想。

同社は、2020年4月期より報告セグメントを見直す。趣旨は経営管理体制（会社単位）にくくり直し、事業内容をより明瞭にするものである。具体的には旧ブロードバンド事業はマンションインターネットが不動産テック事業に移行。ISP事業者向け事業支援サービスがインフラテック事業に移行した。旧モバイル事業はインフラテック事業に移行。旧クラウド事業は、インフラテック事業と不動産テック事業に分けられた。事業を担う会社と報告セグメントがほぼ合致し、わかりやすくなった。

#### 報告セグメント変更について

#### 経営管理体制に合わせて報告セグメントを見直し

より事業内容を明瞭にする報告セグメント名称に変更



出所：決算説明資料より掲載

2020年4月期通期の連結業績は、売上高が前期比13.2%増の57,000百万円、営業利益が同34.2%増の4,000百万円、経常利益が同47.9%増の3,800百万円、親会社株主に帰属する当期純利益が同258.0%増の1,000百万円と、7期連続の増収と過去最高の営業利益を更新する計画だ。

売上高に関しては、稼ぎ頭であるマンションインターネット（不動産テック事業、旧ブロードバンド事業）で提携先大手ハウスメーカー向け提供戸数が増加し、IoTサービスの拡充なども加わり順調に拡大する予想だ。フリービット EPARKヘルスケアが伸びているヘルステック事業、エドテック事業も増収に寄与する予想だ。営業利益に関しては、マンションインターネットが好調の不動産テック事業（旧ブロードバンド事業）、ヘルステック事業が大幅増益の予想。アドテック事業（旧アドテクノロジー事業）も堅調に収益を確保する予想である。

フリービット | 2019年7月10日(水)  
3843 東証1部 | <https://freebit.com/ir/>

今後の見通し

### 2020年4月期通期 業績予想

(単位：百万円)

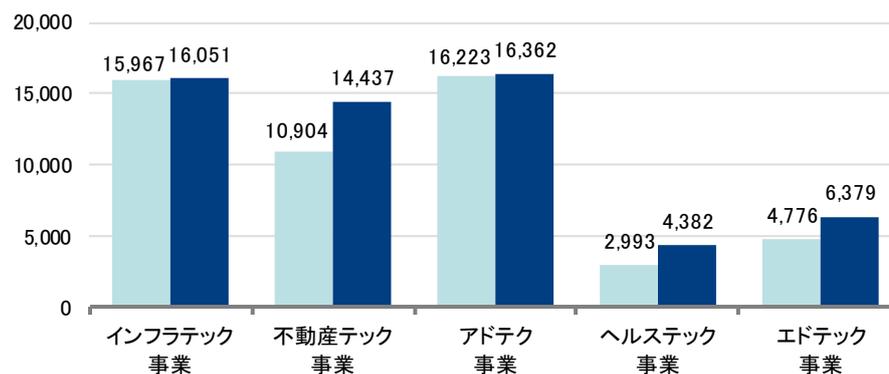
	19/4期		20/4期		
	実績	売上比	期初予想	売上比	前期比
売上高	50,365	100.0%	57,000	100.0%	13.2%
営業利益	2,981	5.9%	4,000	7.0%	34.2%
経常利益	2,569	5.1%	3,800	6.7%	47.9%
親会社株主に帰属する 当期純利益	279	-	1,000	1.8%	258.0%

出所：決算短信よりフィスコ作成

### セグメント別売上高予想

■ 19/4期 ■ 20/4期(予)

(百万円)

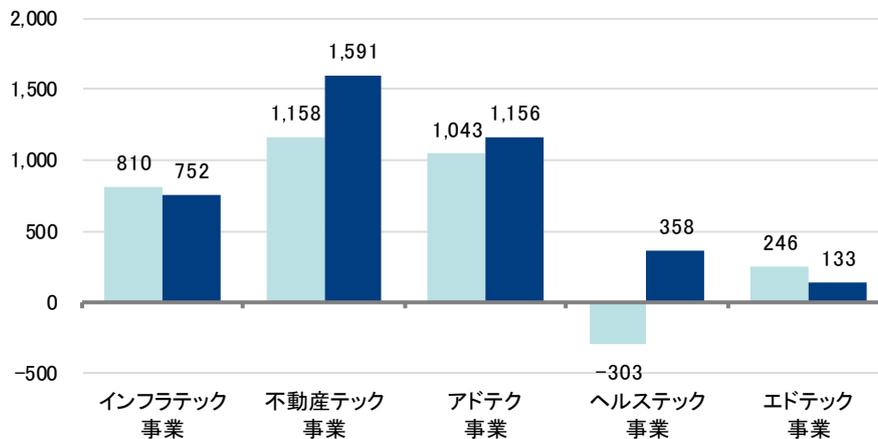


出所：決算説明資料よりフィスコ作成

### セグメント利益予想

■ 19/4期 ■ 20/4期(予)

(百万円)



出所：決算説明資料よりフィスコ作成

本資料のご利用については、必ず巻末の重要事項（ディスクレーマー）をお読みください。

Important disclosures and disclaimers appear at the back of this document.

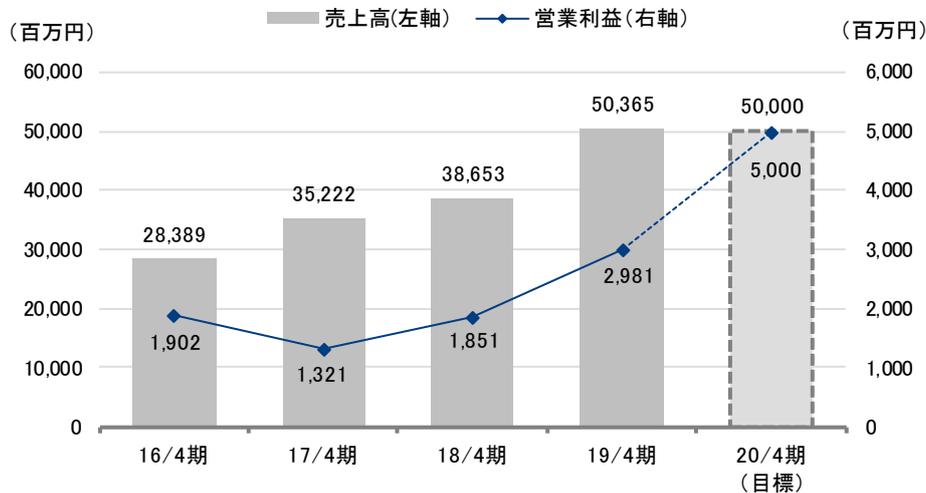
## ■ 中長期の成長戦略

### 中期経営計画「SiLK VISION 2020」の売上高を1年前倒しで達成。 最終年度は営業利益50億円にどこまで近づくかが焦点

#### 1. 中期事業方針「SiLK VISION 2020」の見通し

同社は2016年6月に4ヶ年の中期事業方針「SiLK VISION 2020」を発表し、2020年4月期に売上高500億円、営業利益50億円を目指している。グループ基本方針では生活革命とモバイル革命の2つを成長領域と定義する。生活革命の中では、ヘルステック事業にいち早く着手し、有望な事業としての基盤を確立しつつある。現在、先行投資を加速しているのが不動産テック事業、そして2018年に子会社化したアルクを母体とするエドテック事業である。「SiLK VISION 2020」の最終年度の営業利益目標5,000百万円に対して、2020年4月期の通期予想は4,000百万円であり、両者には開きがある。通期予想は“確実性の高いコミットメント”であり、中期経営計画は“ストレッチ目標”として達成を目指す位置付けである。不動産テック事業やヘルステック事業の想定以上の伸び、インフラテック事業でのコストダウン進捗、エドテック事業でのデジタルサービス化などが奏功すれば、中期経営計画の営業利益目標に近づくことになる。中期経営計画最終年度の追い込みに期待したい。

中期事業方針「SiLK VISION 2020」業績目標



出所：決算説明資料よりフィスコ作成

## 2.ベンチャー企業の発掘と育成

同社は、以前からベンチャー起業家を支援する取組みを重層的に行ってきた。その1つが同社グループ主催のビジネスコンテスト「freebit biz challenge COMPETE」である。このコンテストは、起業家マインドを持った高校生や大学生等の育成とそのビジネスプランの事業化支援が目的。ビジネスプランの審査・評価だけにとどまらず、起業や事業化に必要な知識や事業化の機会を提供する。毎年、プラチナ賞、ゴールド賞、シルバー賞の各受賞者には、事業準備金1,000万円+賞金50万円、賞金30万円、賞金10万円がそれぞれ贈られる。

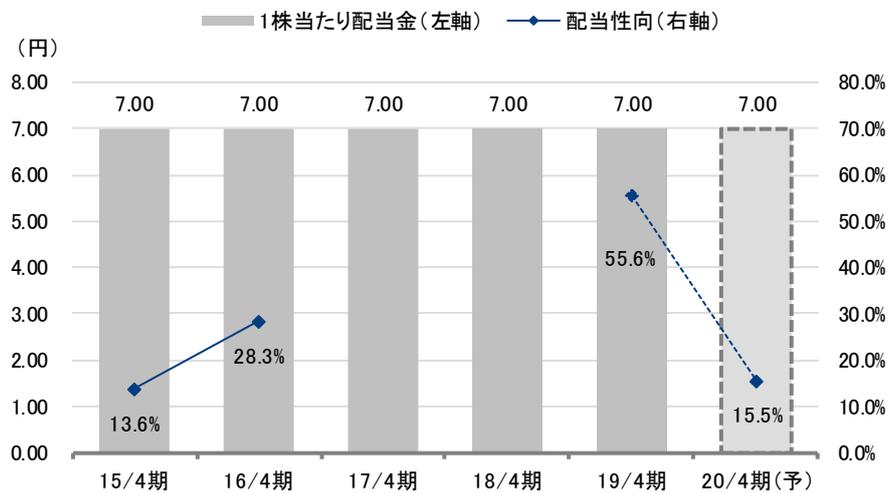
また、同社の100%子会社であるフリービットインベストメントは、今後大きな成長が見込まれる事業に挑戦する創業間もないシード期のスタートアップ企業を中心に投資を行うベンチャーキャピタルである。資金提供のみではなく、グループ企業の顧客・技術・サービス基盤を活用することで、スタートアップ企業が目指すイノベーションの実現を促進する機能がある。投資先には、会議室やデスクのシェアを行う(株)スパイシーや深海探査に水中ドローンによる技術革新をもたらしている株式会社 FullDepth (フルデプス) などがある。同社は様々な取組みを通じて、次世代を担う起業家の育成と社会課題解決につながるビジネスの創出を支援している。

## ■ 株主還元策

### 安定配当。2019年4月期も7円配当を実施

同社は株主還元策として配当を実施している。配当の基本方針としては、内部留保の充実や事業拡大のための投資とともに株主への継続的な利益還元を重視する方針である。2013年4月期から配当金は7円/年を継続中。2019年4月期も配当金7円/年（配当性向55.6%）と安定配当を継続した。2020年4月期も同様に配当金7円/年（配当性向は15.5%）を見込む。

1株当たり配当金と配当性向



出所：決算短信よりフィスコ作成

#### 免責事項（ディスクレマー）

株式会社フィスコ（以下「フィスコ」という）は株価情報および指数情報の利用について東京証券取引所・大阪取引所・日本経済新聞社の承諾のもと提供しています。

本レポートは、あくまで情報提供を目的としたものであり、投資その他の行為および行動を勧誘するものではありません。

本レポートはフィスコが信頼できると判断した情報をもとにフィスコが作成・表示したものです。フィスコは本レポートの内容および当該情報の正確性、完全性、的確性、信頼性等について、いかなる保証をするものではありません。

本レポートに掲載されている発行体の有価証券、通貨、商品、有価証券その他の金融商品は、企業の活動内容、経済政策や世界情勢などの影響により、その価値を増大または減少することもあり、価値を失う場合があります。本レポートは将来のいかなる結果をお約束するものでもありません。お客様が本レポートおよび本レポートに記載の情報をいかなる目的で使用する場合においても、お客様の判断と責任において使用するものであり、使用の結果として、お客様になんらかの損害が発生した場合でも、フィスコは、理由のいかんを問わず、いかなる責任も負いません。

本レポートは、対象となる企業の依頼に基づき、企業への電話取材等を通じて当該企業より情報提供を受けて作成されていますが、本レポートに含まれる仮説や結論その他全ての内容はフィスコの分析によるものです。本レポートに記載された内容は、本レポート作成時点におけるものであり、予告なく変更される場合があります。フィスコは本レポートを更新する義務を負いません。

本文およびデータ等の著作権を含む知的所有権はフィスコに帰属し、フィスコに無断で本レポートおよびその複製物を修正・加工、複製、送信、配布等することは堅く禁じられています。

フィスコおよび関連会社ならびにそれらの取締役、役員、従業員は、本レポートに掲載されている金融商品または発行体の証券について、売買等の取引、保有を行っているまたは行う場合があります。

以上の点をご了承の上、ご利用ください。

#### ■お問い合わせ■

〒107-0062 東京都港区南青山 5-11-9

株式会社フィスコ

電話：03-5774-2443（情報配信部）

メールアドレス：support@fisco.co.jp